

活動の環境を整える

ボランティアは自主性を大切にし、見返りを求めず、社会や人の暮らしがより良い状態になることを目指し活動します。ボランティアがやりがいを感じながら活動を継続するためには、行政や福祉施設、NPO、ボランティア団体など、ボランティアに関わる組織がしっかり活動環境を整えることが重要であると言われています。

今回は、メンバーの大半が大学生ボランティアで構成されている、NPO 法人まちづくり LAB 理事長の永田充さん(右写真)にお話を伺いました。



【事例】 NPO 法人まちづくり LAB の取り組み

自ら育つ環境づくり

まちづくり LAB は現在、永田さんの他は全員のメンバーです。子どもたちにとって少し年上のお兄さん・お姉さんである大学生だからこそできる関わりを大切にしています。後輩へのバトンタッチを繰り返し、リレーをするように事業を進めてきました。

新メンバーは、既存メンバーからの声かけがきっかけになったり、活動に関心をもって来たりする学生がほとんどで、大々的に募集は行っていません。不特定多数に呼びかけて大人数が集まっても、組織にとって必要としている人、団体に「合う」人というものがあがり、そうでない人は自然と離れていくのだそうです。その反面、組織の理念に対し、自身がしたいことを見出した学生は、自主的に学び、意欲的に活動に取り組む、リーダー



▲やる気を大切にする環境が、意欲的な活動を支えます。

【団体紹介】 NPO 法人まちづくり LAB

子どもが安心して暮らせるまちづくりを目指し、主に不登校や外出に困難を抱えている子どもたちに対し、訪問での支援をメインに事業を展開し

のような存在へと成長していきます。

新メンバーが学ぶ場として、何よりも現場を体験することを大切にしています。自分たちを頼りにしている人がいる、ひとりでは難しくてもまちづくり LAB なら支援の手が届く子どもたちがいると気づくことで、行動が変わるそうです。

さらに、卒業しても活動を続けたいと希望する学生も現れてきました。まちづくり LAB は今、仕事として関わるスタッフの雇用に向けた体制整備にも取り組んでいます。

まちづくり LAB の『ボランティアマネジメント』

実は、「ボランティアマネジメント」という言葉を意識してはいないそうです。社会課題を自分事として考え活動に取り組む学生に対して、訪問支援への同行や、各種事業のリーダーを任せるなど、モチベーション高く継続できる環境を大切にしています。また、メンバーひとりひとりの人生と真剣に向き合い、コミュニケーションをとっています。やる気あるメンバーが最大限の力を発揮できるよう応援する体制づくり、それがまちづくり LAB のボランティアマネジメントです。

ています。今後は、より多くの子どもたちに支援の手を広げるため、自治体との協働にもチャレンジしていきます。(http://machilab.org/)

《シメサイ実行委員会》



▲以前の志免祭の様子。
今年 4 月 12 日の前夜祭・13 日 14 日のプログラムや、出演者情報を、団体ホームページ・ツイッター・Facebook などで随時情報更新中です。
お気に入りのパフォーマーを見つける、出店を楽しむなど、楽しみ方は様々です。ぜひ祭りの雰囲気会場を体感してくださいね。

毎年 4 月に大正町商店街界隈で大道芸・アート・芸術文化のフェスティバル「志免祭(シメサイ)」を開催しています。団体では、積極的に広報活動を展開して、開催資金を集めるとともに、ボランティアの募集や事前オリエンテーションなどの準備に取り組んでいます。

広く町内外の人たちに「志免祭を知ってほしい。」「本物のパフォーマンスを目の前で体感してほしい。」「という思いから、福岡県や福岡県教育委員会から後援を受けたり、広報手段を増やしたりするなど、さらなる工夫をされていました。

団体事務局の高村さんは「普通の住宅街が異空間になる 3 日間です。ぜひ多くの方にご来場いただき、パフォーマーと観客と一緒に笑いを共有する楽しさや雰囲気を体感してほしいです。」と話されていました。

平成 26 年から、主に志免町内に点在する神社の歴史や伝承を学び、町内外の人々に発信することを目的に勉強会を重ねてきました。昨年 10 月 7 日(日)に、初めての企画「神功皇后出産を巡るバスツアー」を開催しました。参加者は Facebook でつながった人を中心に親子連れやご夫婦など 21 人でした。

車内では、コースの神社や八幡宮について学び、団体で作成したオリジナルの検定問題に挑戦しました。香椎宮では、団体で準備した神功皇后の出産を巡る紙芝居を披露しました。

参加者の楽しんでいる様子を見て、企画成功の満足感や達成感があったそうです。また新たなルートを考えてバスツアーを計画するそうです。

《神話と歴史を学ぶ会》



▲香椎宮にて。団体メンバーの発案で、事前に漫画家に依頼し、紙芝居を用意して参加者に披露しました。

歴史好きの方、一緒に活動してみませんか？
団体メンバー募集中です。詳しくは団体 Facebook まで。

【取材から見たこと】

上記 2 団体の取り組みから「誰に」「どの手段を使って」団体活動を伝えていくのかという広報活動の重要性が見えてきました。

「誰でもよいから、たくさん来てほしい」という漠然とした思いでは、伝えたい情報が伝わりにくく、誰の参加にもつながりません。まずは団体内で**どのような人に来てほしいのか、具**

体的に話し合っ**てターゲットを絞ることが大事**です。

そして、絞ったターゲットの情報の受け取り方や傾向がわかると、どの媒体を使ってどこに広報すれば効果的かがわかります。

新たな関わりが増えると、団体活動の担い手や理解者が見つかる可能性が高まるでしょう。